

アメリカはどのように冷戦を終わらせたのか 歴史的な経緯からヨーロッパ情勢の危機を考える



講師：吉留 公太（よしとめ・こうた）氏

神奈川大学 経営学部 国際経営学科・教授

リーズ大学大学院政治国際学研究科博士課程修了、PhD(国際関係論)
一橋大学大学院COE研究員、関西外国語大学専任講師、ジョージタウン大学客員
研究員などを経て現職。

著書に『ドイツ統一とアメリカ外交』（晃洋書房、2021年）アメリカ学会第27
回清水博賞、『危機の国際政治史—1873~2012』共著（亜紀書房、2013年）
など。



報告要旨

ウクライナ戦争の勃発は、冷戦終結から現在までのアメリカ外交を問い直している。
冷戦は必ずしも円満に終わったわけではなかった。ドイツ統一や東ヨーロッパ諸国へのNATO拡大が実現した一方で、かつての
東西分断を克服しうる新たなヨーロッパ安全保障秩序の形成は後回しにされてきた。
本講演では冷戦終結期のアメリカ外交の分析を通じて、今日のヨーロッパ情勢の不安定要因を歴史的に検討してみる。

2022年7月15日（金） 16:40-18:10

使用言語：日本語 (Japanese)

オンライン開催 (Zoom)

参加無料・要事前登録 (下記URLをクリックしていただくか、QRコードからご登録ください)

登録期間：7月12日（火）まで

登録用URL：<https://docs.google.com/forms/d/>

